

No.	10-2-8	場所	駒ヶ根市 新宮川の「新宮川橋」		次世代への継承キーワード
名称	①新宮川の濁流で流失寸前の新宮川橋 ②新宮川の氾濫でうまった（流失した）新宮川岸				災害現象理解
災害現象	橋梁の被災			河川	新宮川
補足事項				支流	

上流でがけ崩れが約390ヶ所で発生し、土砂が新宮川に一気に流れ込んだ。竜東（伊那山地）では駒ヶ根市中沢新宮川、百々目木川流域一帯で、死者・行方不明5名、被災人員558名に及び人的被害と家屋や発電所の倒壊、橋の流失等の建物にも被害が生じた。

百々目木、大洞地区などでは、土石流によって60戸以上が流出全壊、農地のほとんどが失われた。

●体験談：災害時、駒ヶ根市原地区在住

<6月27日の>午後三時ころには下割河原の堤防が決壊しそうだということで、牛柵を入れて川の瀬を変える。「いやそんな所へ牛柵を入れたら原側か危ない」ということで、両方で喧々囂々、そうこうしている内に下割河原へ濁流が流れ込む、夕方になり新宮橋の下流の原側の堤防が危ないということで、<玉石を運んできて>並べて水の流れ込むのを防ぐ作業をはじめた。新宮川の荒れ狂った濁流は、一米くらいの高い波が上流や下流、また右岸側や左岸側に出来、石と石のぶっかる「ゴトン、ゴトン」と言う無気味な音がしている。二度目の石を運んで来た時は、先程の石は押し流されて無くなっている始末。流失して来た家等が橋桁に絡み川の流れを止めてしまう状況になり、今度は橋を（略）壊そうとしたが、いざ壊そうとするとなかなか壊れないものだ。そうこうしているうちに下割側から橋が流失したので、ひとまず一安心。しかし増水した天竜川の水の勢いの方が強く、新宮川の水は堤防を乗り越えて田圃に侵入していた。

（中沢公民館文集「溪聲」36災害特集号p.11）

記 録



新宮川の濁流により流失寸前の新宮川橋



新宮川橋を流失し、氾濫で埋まった新宮川岸

出典 「駒ヶ根市の災害史」p.3/ 中沢公民館文集「溪声」第38号p.11

備考 概要欄の< >は編者が補足説明したものです。

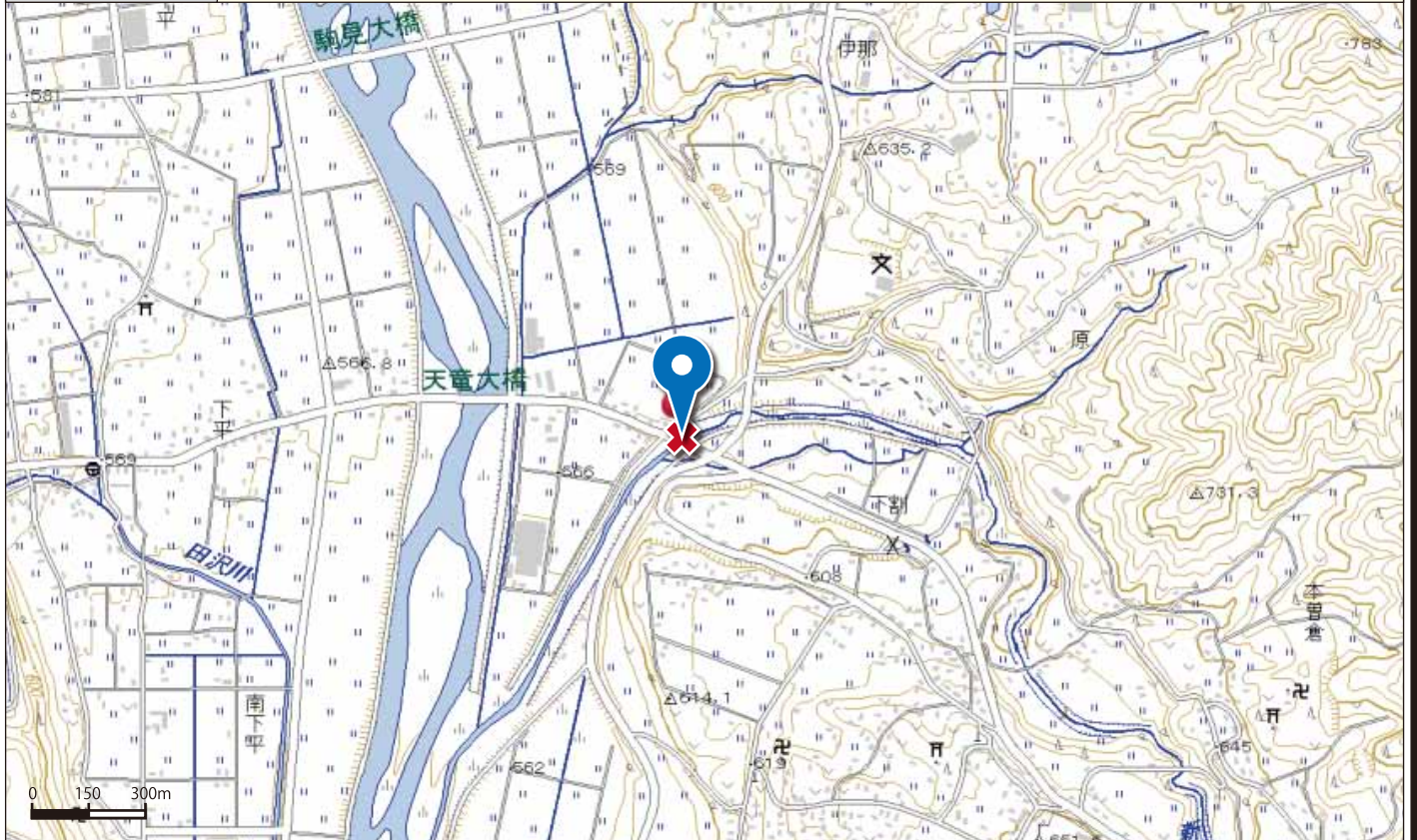
No.	10-2-8	場所	駒ヶ根市 新宮川の「新宮川橋」	緯度	35.734643
-----	--------	----	-----------------	----	-----------

名称	①新宮川の濁流で流失寸前の新宮川橋 ②新宮川の氾濫でつまった(流失した)新宮川岸	経度	137.974859
----	---------------------------------------------	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」(通称：イエローゾーン)といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」(通用：レッドゾーン)といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。